

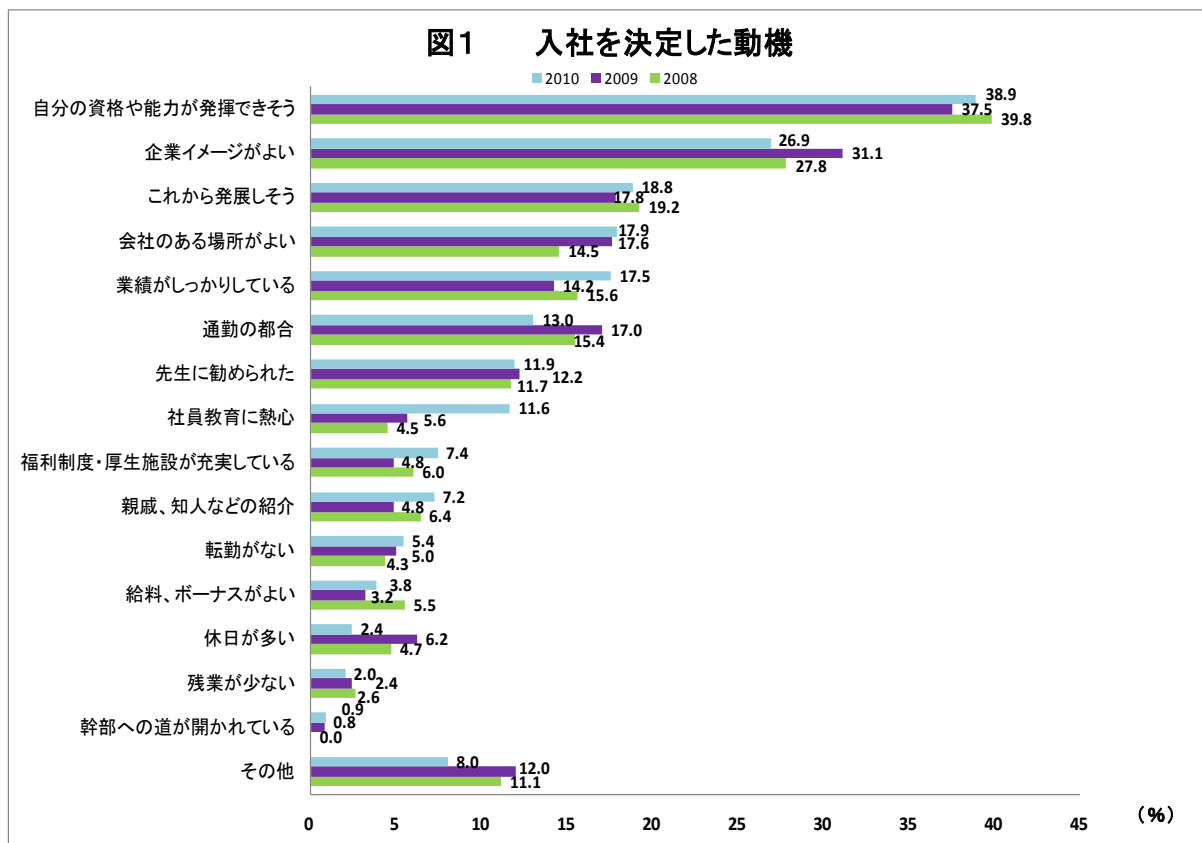
## 「2010年新入社員意識調査」より

### 「自分が成長できる会社」で、定年まで働きたい

世界的な景気の後退により多くの企業が新規採用を見合わせた今年の新入社員は、第二の「就職氷河期」といわれるほど採用選考の時点から厳しい就職活動となった。そんな選考を勝ち抜いてきた新入社員は、どのような思いを胸に新しい社会人生活をスタートさせたのだろうか。当社では、毎年3月から4月にかけて、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。今年の調査結果（有効回答数 561名、うち男性 301名、女性 260名）から、新入社員の仕事に対する意識をまとめてみた。

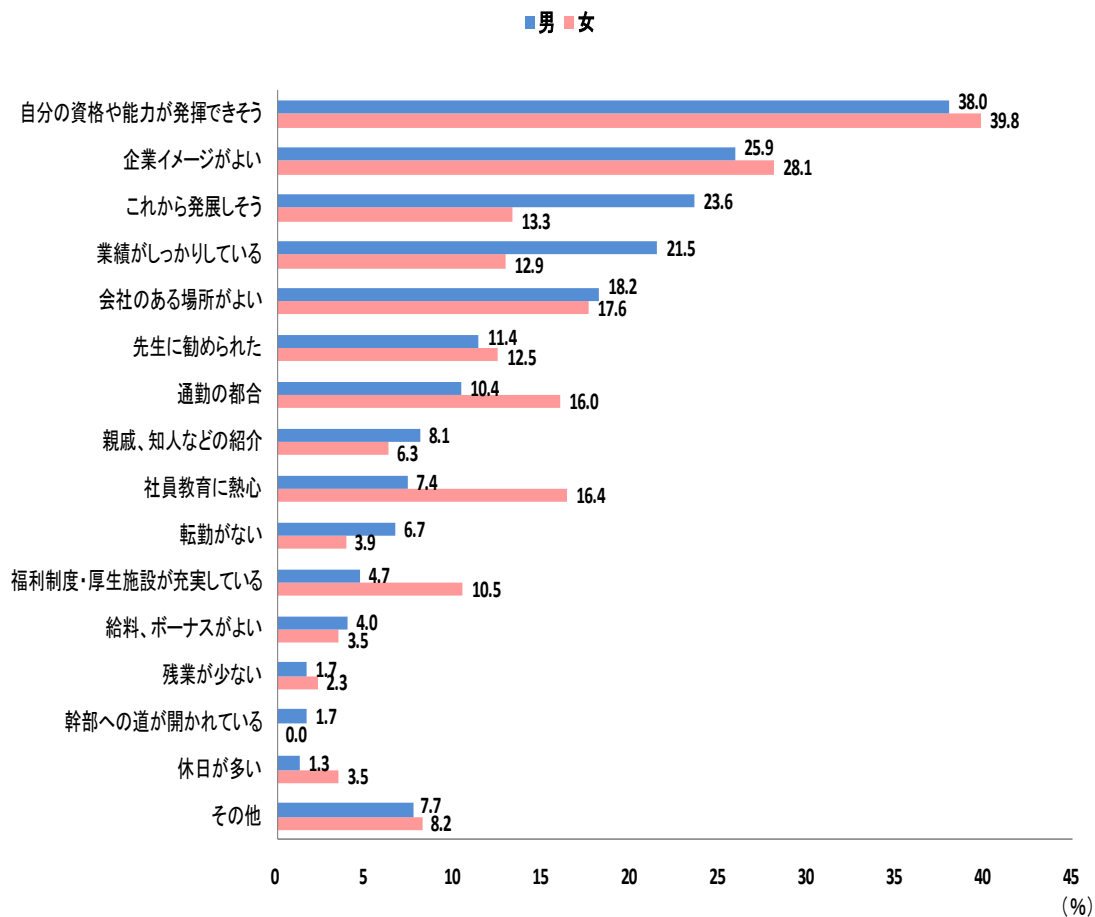
#### 入社した動機は「自分の資格や能力が発揮できそう」が最多

「入社を決定した主な動機」を尋ねたところ、「自分の資格や能力が発揮できそう」が38.9%で最も多く、次いで、「企業イメージがよい」(26.9%)、「これから発展しそう」(18.8%)となった(図1)。今年の特徴は、「社員教育に熱心」が11.6%と、昨年(5.6%)より6.0ポイント増加していることだ。さらに「業績がしっかりしている」も7.4%で昨年(4.8%)より2.6ポイント増えている。反対に、「企業イメージがよい」が26.9%と、昨年より4.2ポイント減少し企業イメージを重視する傾向は弱まった。自分の力を発揮でき、社員教育が熱心な会社で自分を磨き成長したいと考えているようだ。



次に男女別での特徴をみてみると、「これから発展しそう」（男性 23.6%、女性 13.3%）と「業績がしっかりしている」（男性 21.5%、女性 12.9%）、「会社のある場所がよい」（男性 18.2%、女性 17.6%）は男性の回答が多かった（図2）。一方、女性の回答が多く目立ったのは「社員教育に熱心」（女性 16.4%、男性 7.4%）、「通勤の都合」（女性 16.0%、男性 10.4%）、「福利制度・厚生施設が充実している」（女性 10.5%、男性 4.7%）となった。男性は企業の将来性を重視していること、女性は自分が成長できる働きやすい環境であることを重視していることがわかった。

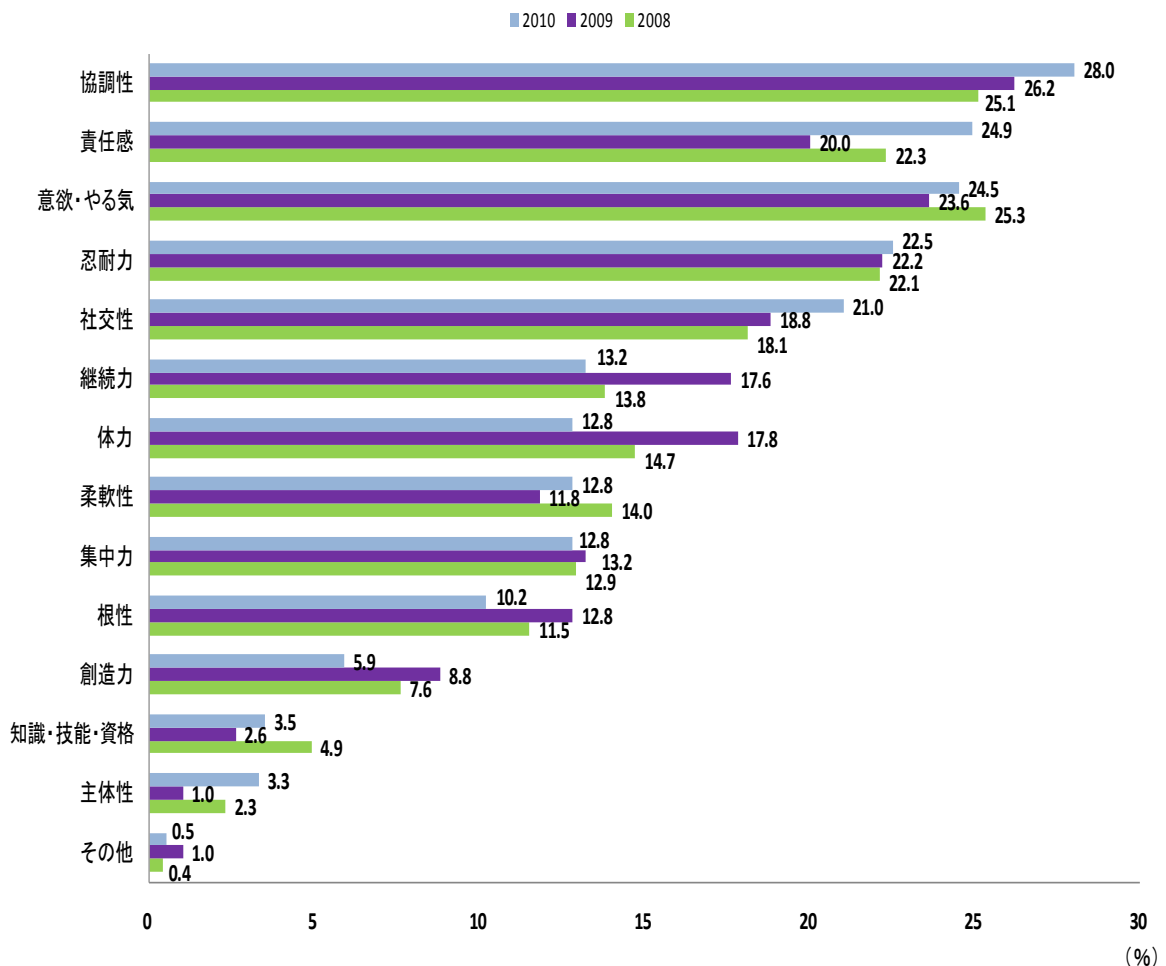
図2 入社を決定した動機(男女別)



## 自分の強みは「協調性」と「責任感」

「社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの」との問いには、「協調性」が28.0%で最も多く、「責任感」(24.9%)、「意欲・やる気」(24.5%)と続いた(図3)。「協調性」については、過去3年間に於いて増加傾向である(25.1%→26.2%→28.0%)。また昨年に比べ「責任感」が大幅に増加(+4.9ポイント)したが、昨年大幅に増加した「継続力」「体力」は、ともに減少している(それぞれ-4.4ポイント、-5.0ポイント)。

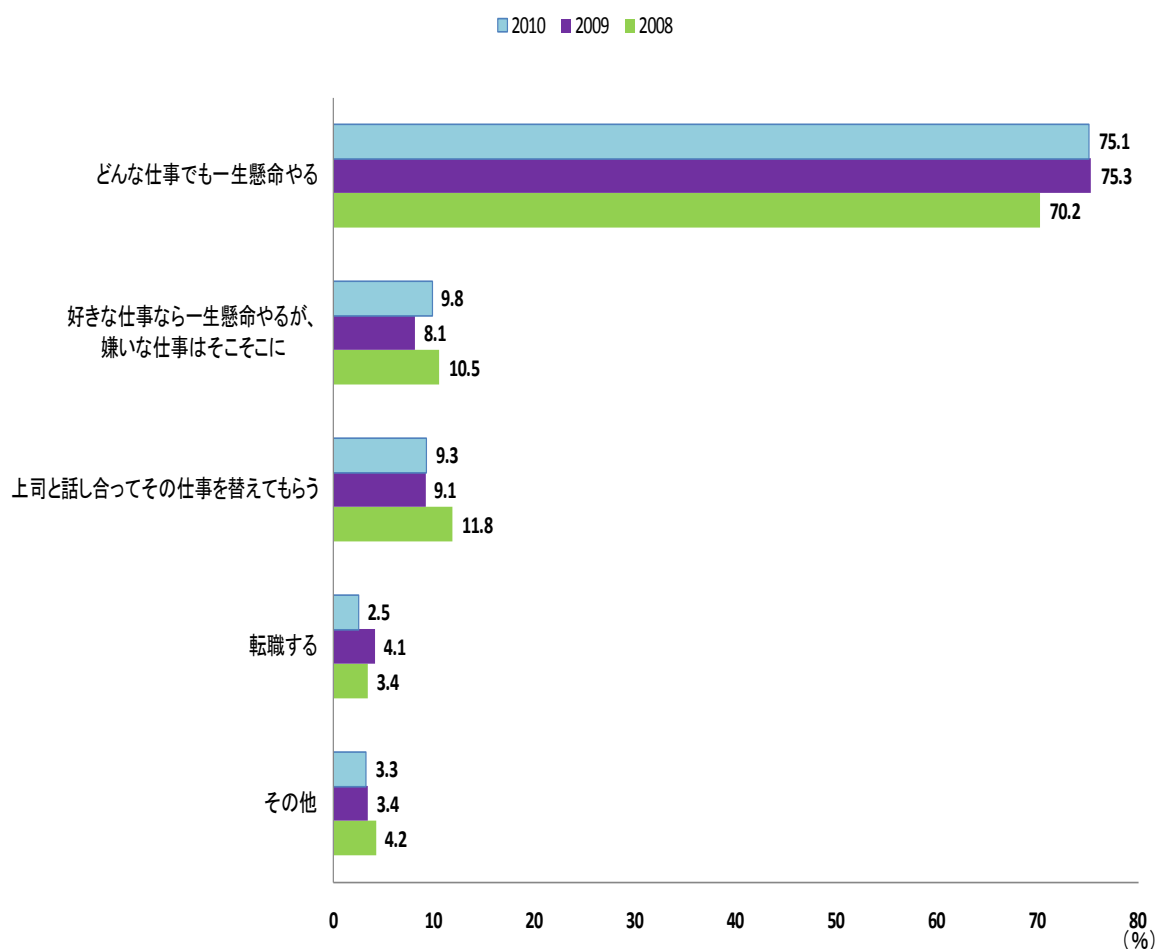
図3 あなたが自信の持てるもの



## 「どんな仕事でも一生懸命に」が7割超え

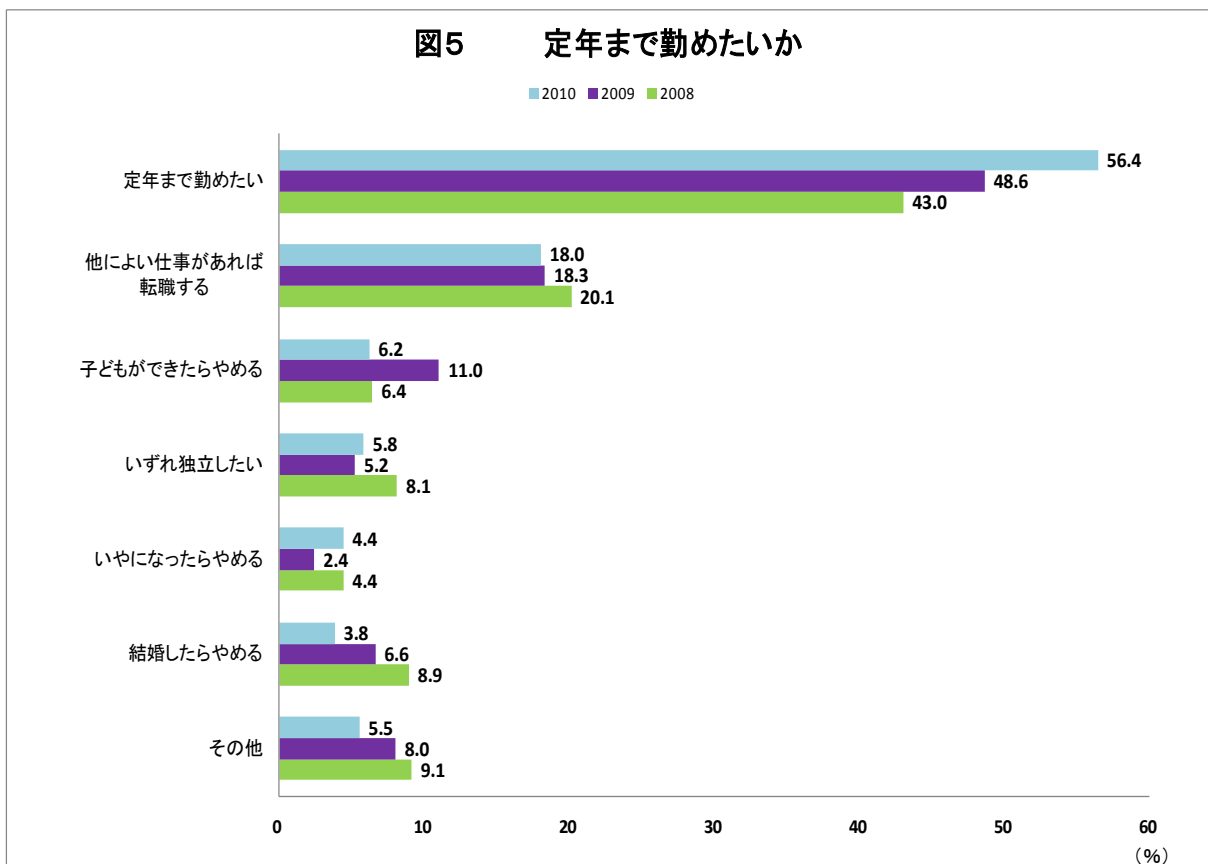
「与えられた仕事が自分に合わないときどうするか」との問いに対しては「どんな仕事でも一生懸命にやる」(75.1%)が最も多く、「好きな仕事は一生懸命だが、嫌いな仕事はそこそこに」(9.8%)、「上司と話し合って仕事を替えてもらう」(9.3%)が続いた(図4)。「どんな仕事でも一生懸命にやる」との回答は過去3年間で7割超が続いている(70.2%→75.3%→75.1%)。好きな仕事は一生懸命だが、嫌いな仕事はそこそこに」(8.1%→9.8%)は、昨年より1.7ポイント増加した。その反面、「転職する」(4.1%→2.5%)は1.6ポイント減少した。

図4 与えられた仕事が自分に合わないときどうするか



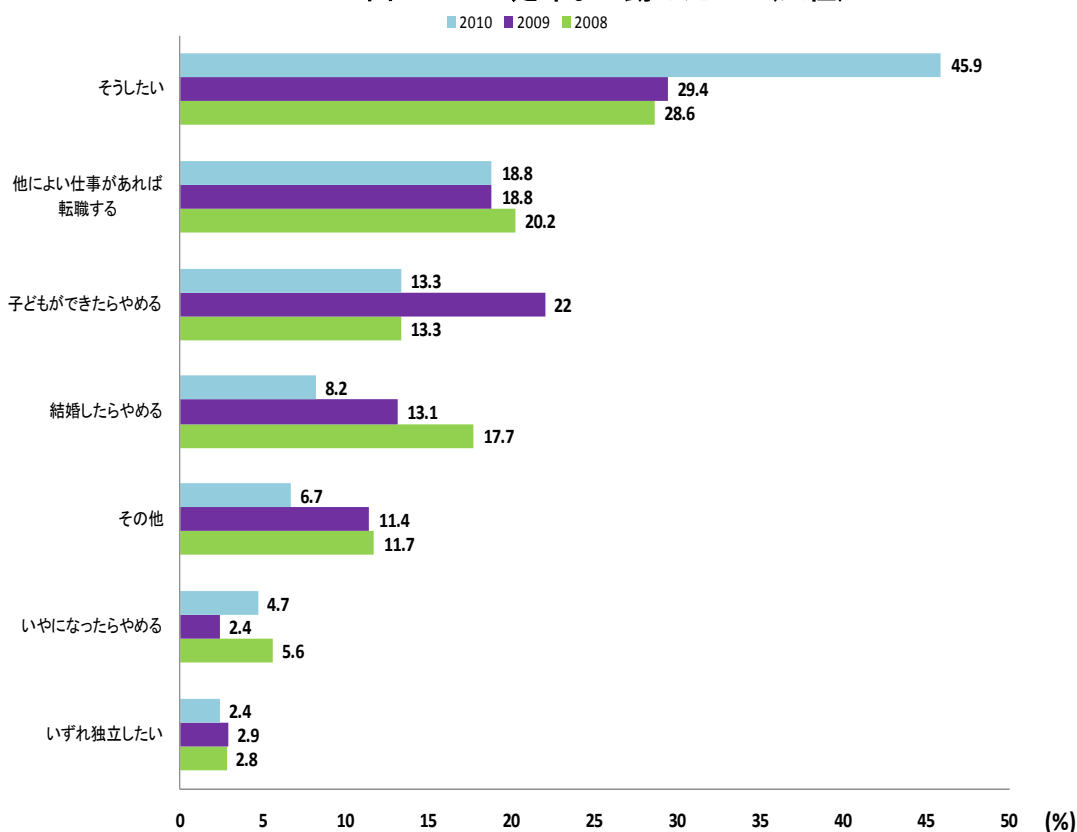
## 半数以上が「定年まで勤めたい」

「定年まで勤めたいか」との問いには、半数以上の56.4%が「そうしたい」と答えており（図5）、過去5年間を見ても半数を超えたのは今年が初めて。また、「他により仕事があれば転職する」という回答が今回は18.0%で、5年連続で減少となった（22.2%→21.1%→20.1%→18.3%→18.0%）。全体的に、今回就職した先に長く勤めたいと思っているようである。

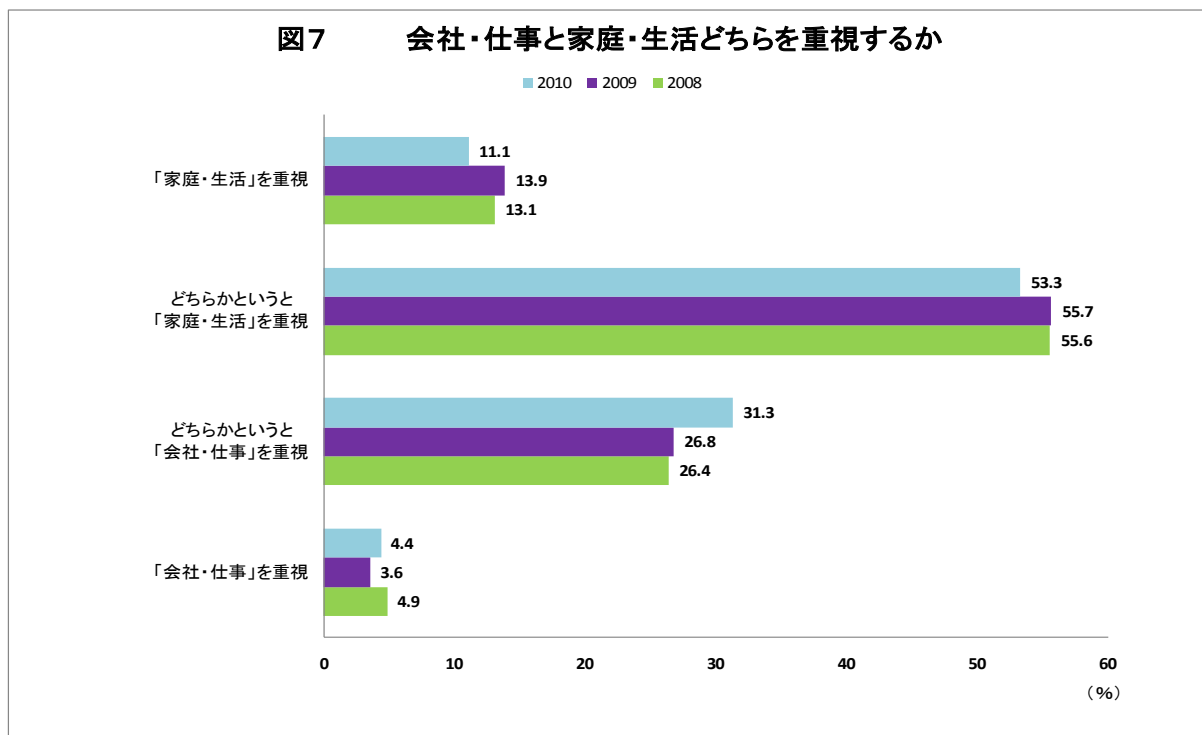


女性の回答に注目すると、「そうしたい」が45.9%で昨年、一昨年から比較すると大幅に増加している（28.6%→29.4%→45.9%）（図6）。さらに「子どもができたらやめる」は8.7ポイントの減少（22.0%→13.3%）、「結婚したらやめる」が4.9ポイントの減少（13.1%→8.2%）となった。過去3年間をみると、結婚を契機に仕事を辞めようとする女性が減ってきている。今年的女子新入社員は結婚や出産をしても働き続けたいという意思を持っているようだ。

図6 定年まで勤めたいか(女性)

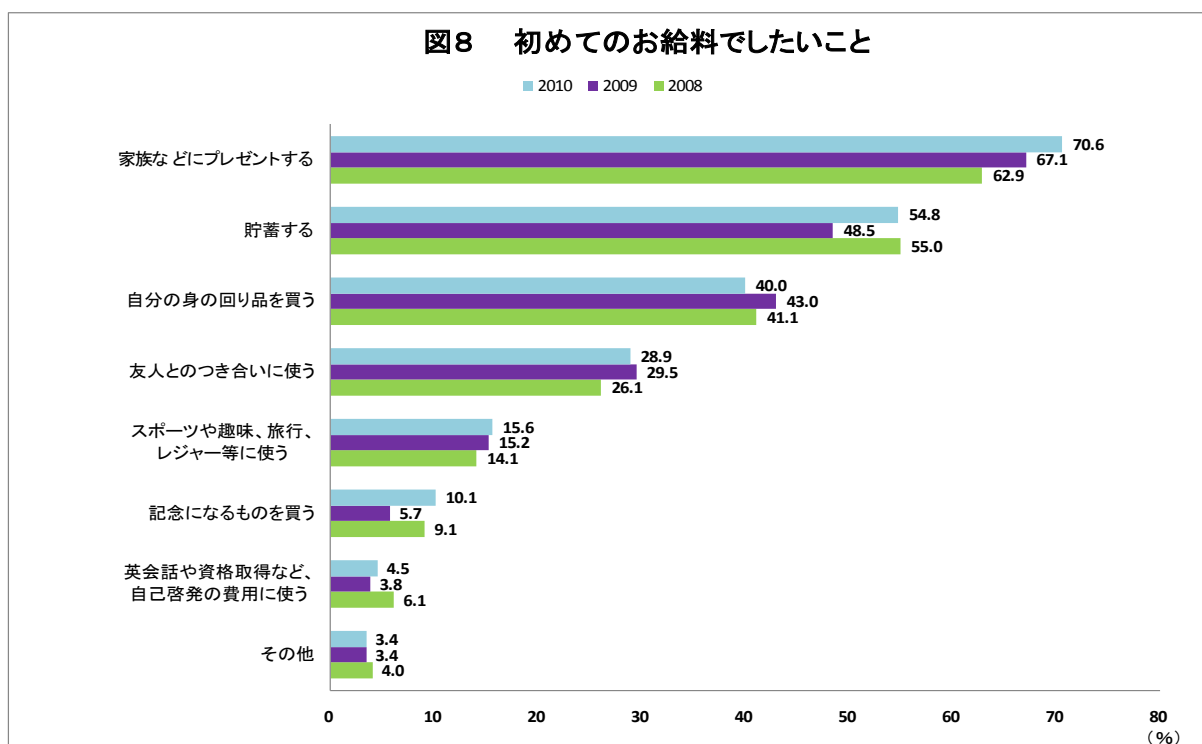


「会社・仕事と家庭・生活どちらを重視するか」との問いには、「会社・仕事を重視」「どちらか」というと会社・仕事を重視」の回答は増加している（それぞれ3.6%→4.4%、26.8%→31.3%）（図7）。その反面、「家庭・生活を重視」「どちらか」というと家庭・生活を重視」との回答は減少している（それぞれ13.9%→11.1%、55.7%→53.3%）。「家庭・生活」を重視している割合は多いものの、厳しい就職活動の末、やっと入社した企業だからこそ、納得がいくまで働き、仕事を重視する新入社員が増えているのだろう。



## 初めての給料は「家族にプレゼント」がトップ

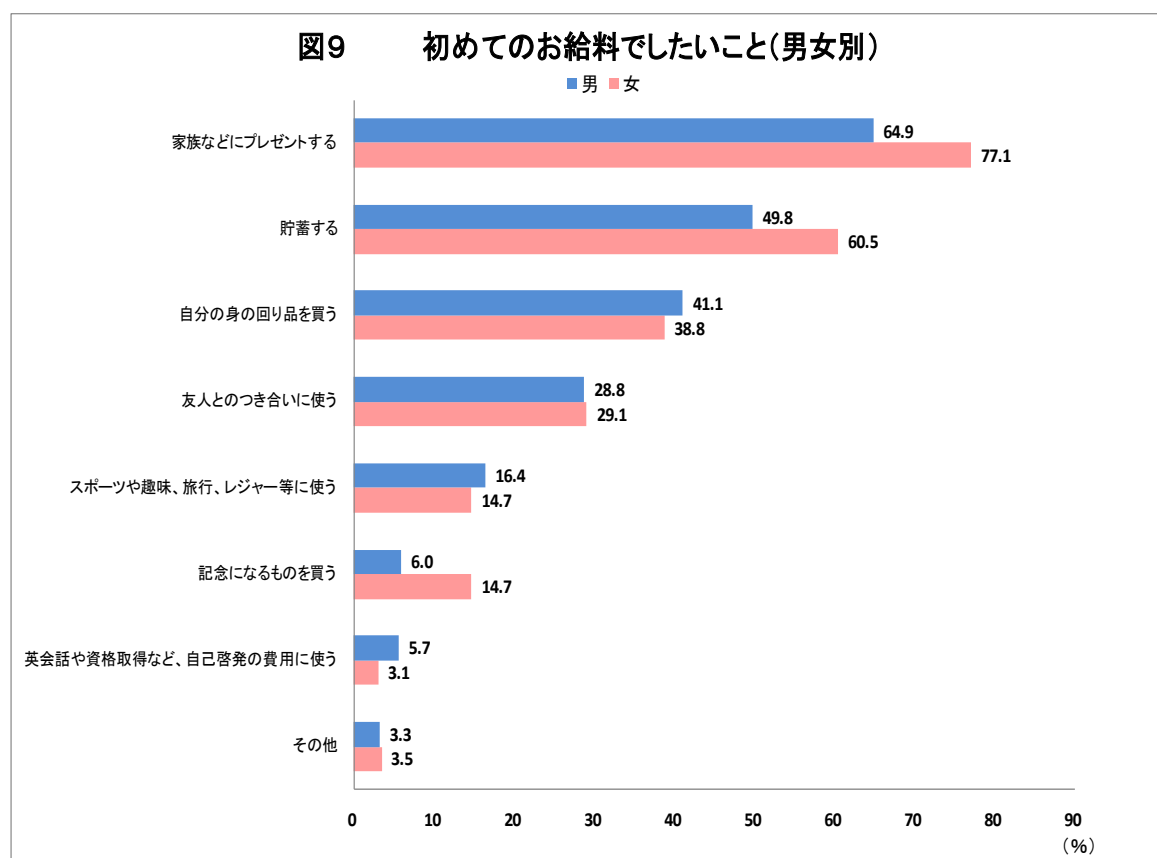
「初めての給料でしたいことは何か」との問いには、「家族などにプレゼントする」(70.6%)が最多で、過去3年間で増加し続けている(62.9%→67.1%→70.6%) (図8)。次いで、「貯蓄する」(54.8%)が昨年より6.3ポイント増加した。一方、「自分の身の回り品を買う」(40.0%)は昨年より2.0ポイント減少した。



男女別でみると、「家族などにプレゼントする」（男性 64.9%、女性 77.1%）となり、男女の差は 12.2 ポイントであり、女性の回答が多い（図 9）。次いで多かった「貯蓄する」（男性 49.8%、女性 60.5%）の男女差は 10.7 ポイントで女性の回答のほうが多かった。

男性の回答が女性を上回った設問は「自分の身の回り品を買う」（男性 41.1%、女性 38.8%）、次いで「スポーツや趣味、旅行、レジャーなどに使う」（男性 16.4%、女性 14.7%）、「英会話や資格取得など、自己啓発に使う」（男性 5.7%、女性 3.1%）となった。

男女で違う特徴がみられるものの、全体としては今年も初任給はお世話になっている家族にプレゼントをしたり、将来のために貯蓄をしようと考えている新入社員が多く、自分のために使うを上回った。

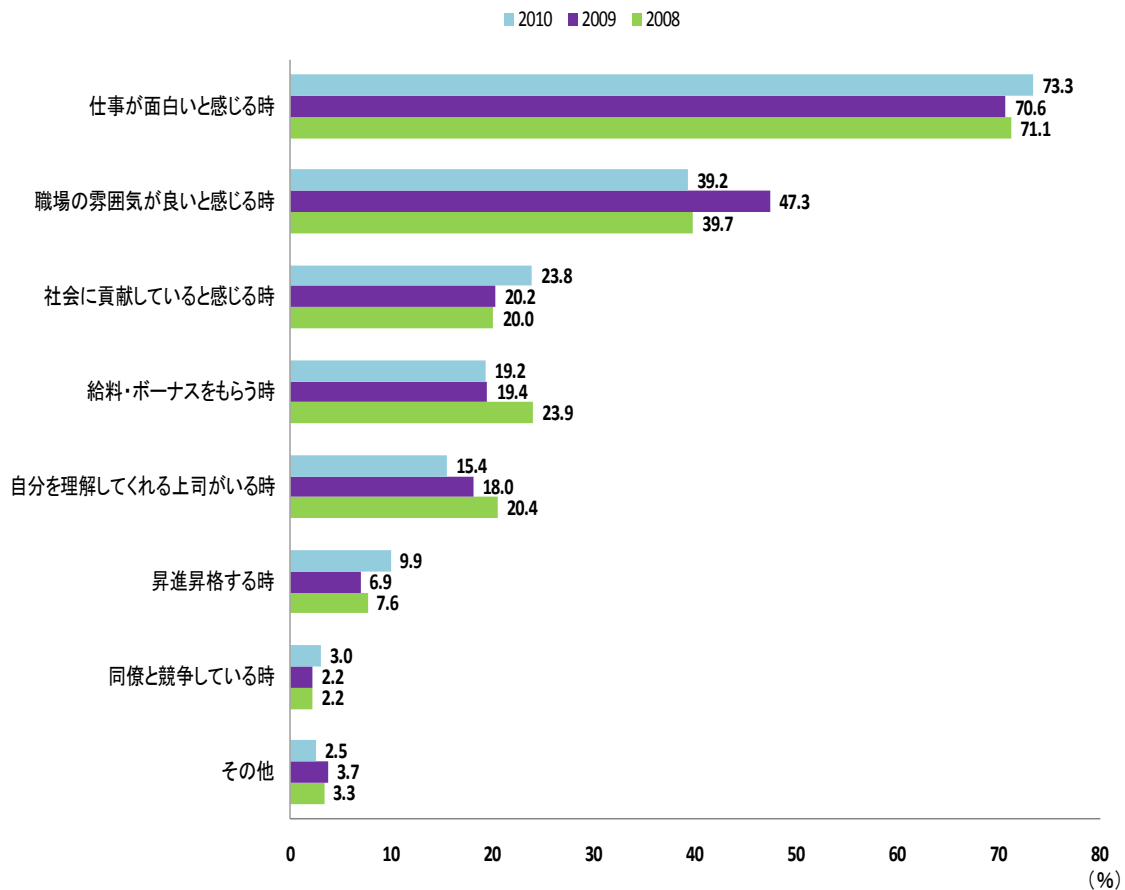




## 働きがいを感じる時は「社会に貢献している」と感じる時が増加

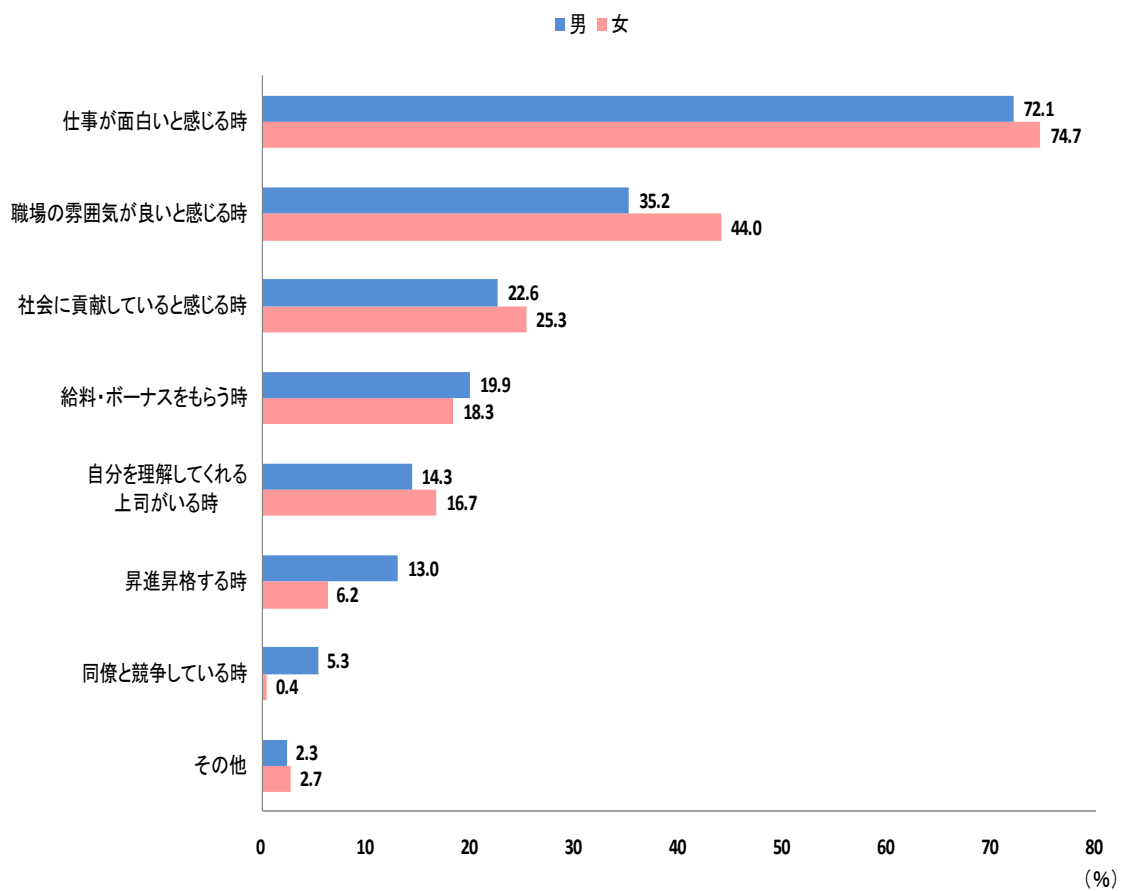
「どのような時に働きがいを感じるか」との問いに対して、一番多かったのは「仕事が面白いと感じる時」(73.3%)、次いで「職場の雰囲気が良いと感じる時」(39.2%)、「社会に貢献していると感じる時」(23.8%)の順であった(図10)。選択肢の中で、昨年より最も増加したのが、「社会に貢献していると感じる時」(20.2%→23.8%)で+3.6ポイントであった。一方、昨年より最も減少した項目は「職場の雰囲気が良いと感じる時」(47.3%→39.2%)で-8.1ポイントであった。

図10 どのような時に働きがいを感じるか



男女で比較して、男性の回答が女性より多かったのが「昇進昇格するとき」(13.0%)で女性との差は6.8ポイント、次いで「同僚と競争しているとき」(5.3%)では、女性との差は4.9ポイントとなった(図11)。一方、女性の回答では「職場の雰囲気が良いと感じる時」(44.0%)が男性の回答より最も多く、8.8ポイント上回った。次いで「社会に貢献していると感じる時」(25.3%)となり、男性との差は2.7ポイントであった。

図11 どのような時に働きがいを感じるか(男女別)



## 理想の上司は「イチロー」「天海祐希」

「理想とする上司像を有名人に例えると」の問いには、男性の上司としては、大リーグで活躍中の「イチロー」（男性 29 人、女性 29 人）が 5 年連続で 1 位。女性の上司では女優の「天海祐希」（男性 10 人、女性 30 人）が 1 位となり、女性からの支持が圧倒的に多かった（表 1）。「その有名人を選んだ理由」では、「イチロー」は、「率先して手本を見せてくれそう」が 24 人で最も多く、次に「頼りになりそう」が 20 人で続いた。「天海祐希」を選んだ理由として、「頼りになりそう」が 22 人で最も多く、「面倒見がよく、何でも相談できそう」が 16 人で 2 番目に多い回答となった。

仕事のお手本となるような、頼りがいのある先輩であり、かつ面倒見が良く、何でも相談できるような上司を求めているようである。

表1 理想とする上司像

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	58	1	天海祐希	40
島田紳助	44	2	真矢みき	33
所ジョージ	26	3	黒木瞳	26
関根勤	12	4	篠原涼子	21
唐沢寿明	12	5	和田アキ子	18

## 新入社員の意欲維持のための職場づくりを

厳しい就職活動が続くなか、今年の新入社員像は協調性や責任感を持ち、意欲・やる気に満ち溢れている姿が浮かびあった。さらに、半数以上が「定年まで働きたい」と考えているのが今年の大きな特徴である。転職を考えている新入社員は減少傾向ではあるものの、今後景気が回復した時でも、長く働きたいと思ってもらえるように企業側も新入社員の意欲・やる気を維持させ、働きやすい職場環境の構築が重要だろう。われわれも理想の社会人像を参考に社会人の先輩として良い手本となり、何でも相談できる雰囲気づくりが大切ではないだろうか。

2010年7月1日  
しがぎん経済文化センター  
山西 麻美